

よそ者は、いつから地域の仲間になるのか ―観光と「関係人口」の研究―

国際社会学部　国際社会学科
村上 昂音　准教授

観光地を訪れる旅行者、進学や就職で移り住む人、地域おこし協力隊、そして長与町で学ぶ大学生。地域には、さまざまな「よそ者」がやって来ます。「よそ者」という言葉には、少し距離を感じるかもしれません。しかし、地域の人には見慣れた風景や当たり前の習慣も、外から来た人の目には、新しい魅力や課題として映ります。

私は、観光をきっかけに地域と出会った人が、その後どのように関わりを深め、地域の一員や担い手になっていくのかを研究しています。近年、移住しなくても、何度も地域を訪れたり、地域の商品を買ったり、行事や活動を応援したりする人々は「関係人口」と呼ばれ、全国で注目されています。

ただし、関わる期間が長いからといって、必ず地域で活躍できるとは限りません。自分らしい役割を見つける人もいれば、役割や居場所を見つけられず、関わりが途切れる人もいます。その違いは、本人の熱意だけでなく、地域が外から来た人をどのように迎え、役割や居場所をつくるかにも左右されます。私は、小値賀島をはじめとする長崎県内の地域を対象に、こうした違いが生まれる仕組みを明らかにしようとしています。

授業やゼミでは、学生たちが地域の魅力や課題を見つけ、観光ビジネスの提案にも挑戦しています。地域を外から見つめる学生の発想も、「よそ者の視点」が生み出す力の1つです。

中高生の皆さんも、いつか進学や就職で、どこかの地域の「よそ者」になるかもしれません。外へ出ることは、ふるさとを捨てることではありません。新しい土地と出会い、そこで得た経験を生かしながら、離れた場所からふるさとに関わり続けることもできます。人と地域の新しい関わり方を、一緒に考えてみませんか。



賞　状

審査員特別賞

長崎県立大学シーボルト校
Harmony Paw（ハーモニーパウ）　殿

あなたは学生対抗九州観光ビジネスプランコンテスト２０２５において頭書の成績をおさめられました
よってその栄誉を称えこれを賞します

令和７年12月13日

学生対抗 九州観光ビジネスプランコンテスト２０２５審査委員長
一般社団法人 九州観光機構会長　唐池 恒二

賞状



学生チームと引率した教員（写真右端）との記念写真